

読売歌壇

小池 光選

にわか雨おろしたての下駄ふところに裸足で
下校した遠き夏の日 郡山市 成田富美子

【評】こどもたちはまだ靴など履かず、下駄履きだった頃。新しい下駄に喜んでいたらあいにくの雨。それでふところにいれて、裸足で帰ってきた。ドラマの一場面のように。カラオケ喫茶閉まるをわびて八十の女店主はどら焼き配る 富山市 杉浦 良子

【評】地元カラオケ店があつて高齢者などが歌いにくる。人気ある店だが、女店主が八十歳になって継続が無理になった。最後に「どら焼き」をみんなに配る。泣かせるなあ。たばこ屋のかなえちゃん家のおばあちゃんから疎開の朝に饑餓いだなく 高槻市 佐々木文字子

【評】これはいわゆる学童疎開なのだろう。出発の朝、饑餓をもちたつたことをほじめて知った。生涯忘れられない思い出。外国の若衆達の手をかりて裏の河川に橋かけたり 銚田市 平元 房子

人生に卒業はなし卒業なお解せぬ語ありて古語辞典引く 埼玉県 真下 杏子

雑談も人生会議のやうなもの西瓜切り分けつつかずかすの父の遺した茶道具を処分し困りながらめるばかり 宇治市 上原 恭子

煎餅をばらばらこぼすじいちゃん新聞社説を膝に敷いてく 札幌市 橘 晃弘

最小の硬貨拾って一円を募金にしたり百円足して 対馬市 神宮 斉之

摩訶不思議ドレミファソラシ七音で無数の曲の生まれる世界 さいたま市 大塚 数子

栗木 京子選

月曜日半音下がる「ただいま」に半音上げて母の「おかえり」 姫路市 平手 礼子

【評】作者は毎週、月曜日から出勤(または登校)が始まるのだから。疲労を感じ取った母はさり気なく励ましてくれる。「半音」のやりとりから親子の素敵な関係がわかる。妹に習ったハンゲル「チャレソヨ」いちばん先に自分に言った 枚方市 小川 洋子

【評】韓国語の「チャレソヨ」は「よく頑張った」の意味。日本語で自分に言っていると少し照れるが、韓国語ならばすんなりと受けとめられる。私も真似をしたかった。中国語も日本語もわかるシャンシャンは四つ川省にて七歳迎ふ 東京都 西垣 郁子

【評】上野動物園で生まれたパンダのシャンシャン。四つ川省で七歳になった。たしかに彼女はバイリンガル。発想の楽しい歌である。忘れない煙草葉出荷のその足で亡父がミンゲを買ってくれた日 福山市 平井 和子

電柱に逗留をするミツバチの群れに驚くニンゲンの群れ 北九州市 白木 典子

老ゆる身を憚りながらも指名とあればホームへ髪刈りにゆく 南魚沼市 今成 愛子

この辺り食品スーパー激戦区あちこち比べ老いの脳トレ 坂井市 中口 洋子

逆さし子にきつと似合ふと立ち止まる紳士服売場の縞のネクタイ 洲本市 荒浜 悦子

足もつれホルルの階段踏み外す「痛え！」の叫びが館内に響く 鴻巣市 福島 勉

右の手のギプスはずれて肌白し夏本番の空を見上げる 小山市 松本 道子

俵 万智選

すこしづつ普段のわれを取り戻すふだんのわれは納豆が好き 市原市 井原 茂明

【評】非日常から日常へ戻るとは、案外こういうものかもしれない。納豆が好きだった自分を思い出して慈しむような感覚に、作者も読者もほっとさせられる。漢字とひらがなで繰り返された「ふだん」に、思いがこもる。青春をおおはると読み最強をさいつよと読む知って損なし 大津市 佐々木敦史

【評】若い人独特の読み方を、否定するのではなく、興味を持って味わうような感覚に共感した。あおぐさいし、つよそうだ。書き出しが決まらず揺らすペン先も遠くへ飛ばす素振りのひとつ 越谷市 あきやま

【評】素振りの比喩がユニーク。今は空を切っているけれど、このペン先からヒットやホームランを打つぞという決意が伝わってくる。日帰りで来てるのだからあの人は全力で湯に包まれている 松原市 たらりずむ

右肺へ直腸の癌転移する樺高跳びの選手のごとく 匝瑳市 椎名 昭雄

会いたさが鉛筆の芯を細らせる午後の光の滴ちる講堂 大和郡山市 大津 穂波

6月の車内を歩く ゆるやかな川に逆らうようなこちで 川崎市 からすま

雨粒の伝う速度で触れられてたぶんなかったことのできなない 朝霞市 桐島 あお

表から見えないけれど裏だつてきれいでいたい のさ、まつり纏い 堺市 一條 智美

頭立ちのポーズする朝わが影はほそく冷蔵庫に映りたり 東京都 室伏 圭子

黒瀬 珂瀾選

街路樹のデイゴを揺らす初夏の風に踰躍めき老いを知りけり 尾鷲市 中村 東太

【評】上句のさわやかな季節感と対照的な下句の老いの自覚。同じ風に吹かれてもデイゴは優雅に揺れ、自分は情けなくよろめくという、ちょっとした自虐に詩情があります。暑さにも「危険な」がつく世となりて鶏頭の花ぞす黒く咲く 大和郡山市 四方 護

【評】近年は夏の猛暑も災害級で、命にかかわるありさま。これも環境汚染のせいだろうか。地球温暖化を招いた私たち人間を、鶏頭がじっと見つめているのです。黒檀の位牌は今日もやや軽く父は私の肩先にいる 四万十市 佐竹 紫円

【評】重みのあるはずの黒檀の位牌が軽く感じられる。もしかしたら、亡き父が手を添えてくれているのかもしれない。バズ・ライトイヤーが空を見上げてる吾子の巣立った部屋の窓から 東京都 伊藤 直司

十四が「15の夜」をのど自慢いいなと聴くわれば喜寿なり 船橋市 山崎三千子

嫁ぎ来てうから七人睦びしをひとりとなりて九十路を生く 天草市 野口久仁子

次々に集まる名刺九十歳超えたる叔母の介護プランに 鎌倉市 荒井美知子

曲りたるきゅうり一本なす一本ちようど良きかな夫との夕餉 佐世保市 福田 浩子

おふくろと同じ年ねと云う医師に親しみ今年も胃カメラ検診 淡路市 河合 律子

良き本を見つけて語る友の無く葉に挟む透明の花 立川市 市川 純

◇投稿規定◇ はがき1枚に未発表の1作品。住所、氏名(ふりがな)、電話番号を明記。◇他の媒体、選者への二重投稿は厳禁です。選者が添削することもあります。〒103・8601、にほんばし蔵前郵便局留、読売歌壇(俳壇、○○先生(希望選者名)係または読売新聞オンラインから ◇毎週月曜日に掲載 右の影絵はあさがお